

共生・公正・創造



東日本タイムズ号外

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
 〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
 TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
 発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【虚構からの訣別を図るべき時期に到達したJR東日本！ シリーズ6】 小説・労働組合の一つの読み方、党中央は福原・嶋田側！？その

いわゆる「福原本」（谷川忍『小説労働組合』）はなんとも物凄い内容の書物である。そこでは「松崎明」の正体、JR革マル派の生態、JR総連・東労組運動の内部奥深くに隠されている欺瞞性などが完膚無きまでに暴露されている。何故、今、そのような物凄い内容で、世に出たのか、一つの結論に到達した。筆者の立てた「仮説」の結論を一口で言うと、「党革マル派は情動的に福原・嶋田派支持にまわった！？」ということである。

----- (小説・労働組合より) -----

南国鉄道労組< JR総連傘下「九州労」>の組合員は1300名を割っていた。南国鉄道労組の新藤< 「北弘人」>委員長は日夜悩んでいた。「このままでは組織はギリ貧だ。なんとか打開する方法がないものか」この悩みは南国鉄道労組だけではなく、同様の事情にある関西鉄道労組< JR総連傘下「西労」>や中部鉄道労組< JR総連傘下「東海労」>共通の問題でもある。 - 中略 -

組合員が減少する現状をどう打開するか。思い悩んでも妙案はなかった。ある日、思いあぐねて新藤委員長は大元< 「松崎」>に指導を求めた。新藤委員長の悩みに、大元はいつものように間髪いれず明快に答えた。「新藤にしては悩んだこと自体が上出来だ。統一なんか出来るわけがないだろう。会社組合< JR連合傘下「九州労組」>へのもぐり込みだよ。それも一気呵成にやらなければならん。鉄道連合を敵視している日の丸労組< 「国労」>の大会までだな」大元の発言は、組織では議論の出発点ではなく結論である。しかも単なる個人の意見ではなく、組織決定を意味している。多数派の会社組合に、少数派の南国鉄道労組の活動家が潜り込むという戦術は、ただちに一部幹部の手によって秘密裡にすすめられた。 - 中略 -

会社< JR九州>は警察と連絡をとりながら会社組合の幹部を呼びつけ、南国鉄道労組に「あからさまな選別加入をせよ」という攻撃をかけさせた。結果として南国鉄道労組内部は組織に残る組合員、会社組合に加入する組合員、理由がわからないまま幹部の引き回しに嫌気がさして南国鉄道労組から脱退する組合員に三分解した。南国鉄道労組の組織は半減し、影響力は急速に衰えた。（谷川 忍著『小説 労働組合』p. 35～36）

上掲、いわゆる「福原本」の生々しい記述は、JR九州とJR連合に見透かされて散々な結果に終わった「九州労組への潜り込み大作戦」失敗の最高責任者が「松崎明」その人であることを天下に暴露したものである。となると、ここで問題なのは“党革マル派の公式見解”との関係である。従来、党革マル派は、数年来続いているJR総連・東労組の内部確執、松崎・本部派（＝JR革マル左派）と福原・嶋田派（＝JR革マル右派）との対立抗争に関しては一切発言を控えている。それはもう見事なほどの“完全沈黙”ぶりである。それがあまりにも徹底し過ぎているが故に一層不審がられてしまう羽目になる訳なのだが、それはともかく、惨敗した「九州労擬装大量脱退 九州労組への潜り込み大作戦」とその戦争指導責任者追及に関しては、革マル派は機関紙・誌等に大量の党見解を発表している。

《国鉄改革の完成に向けて（宗形明著）197ページ～198ページより抜粋》